

断層を検出する——阿武隈沖の反射記録によって——

中条 純輔 (環境地質部)
Junsuke CHUJO

茂木 昭夫 (海上保安庁 水路部 測量課長)
Akio MOGI

宮崎 光旗 (海洋地質部)
Teruki MIYAZAKI

桜井 操 (海上保安庁 水路部 主任水路測量官)
Misao SAKURAI

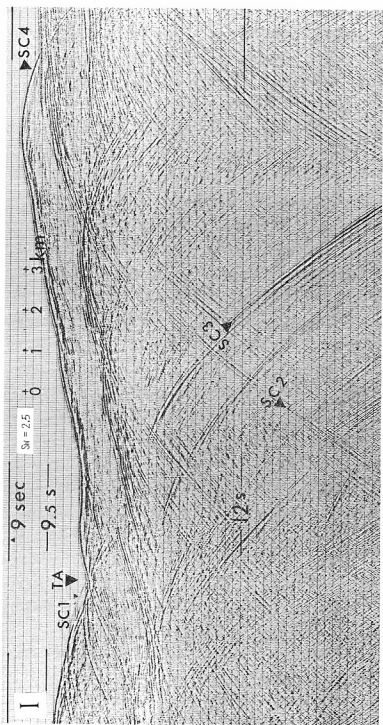
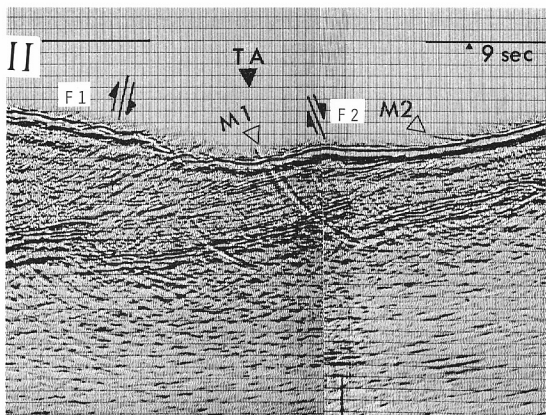
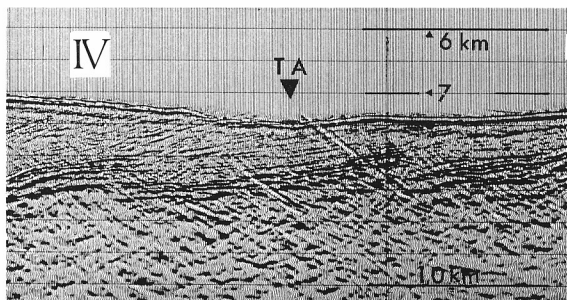


図1 日本海溝の記録
阿武隈沖で日本海溝を垂直に横切る反射波の記録。24重合
を行った時間断面。TA—海溝軸 7523m SC1—SC4は位
乱波。



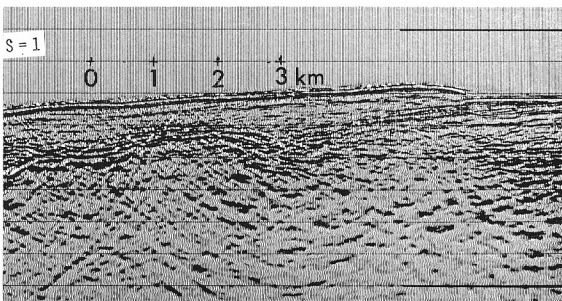
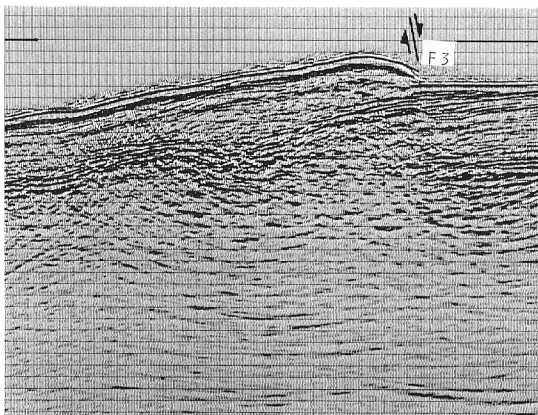
図版2 マイグレション記録

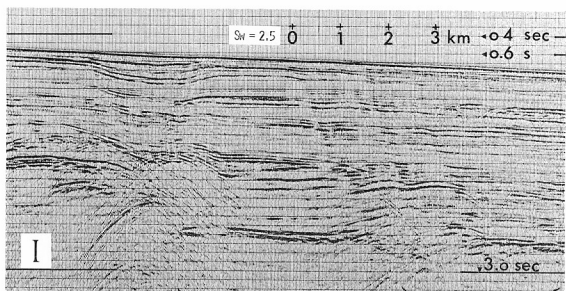
前記録にマイグレション処理を行ったもの。M1 M2は処理雑音。F1 F2は海洋基盤を切る断層。F3は地形にも出ている正断層。記録の様式図は本文の第11図に示される。



図版3 深度変換

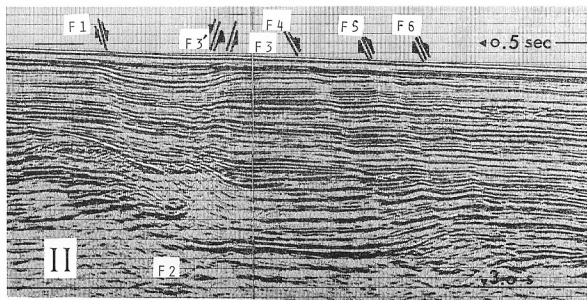
マイグレション済の時間断面に深度変換を施して尺度を地質断面と同じく1対1 (S=1) にしたもの。





図版4 堆積盆の記録

三陸一常盤地向斜の堆積盆の一つ。24重の時間断面。



図版5 マイグレーション記録

前記録にマイグレーションを行ったもの。断層がわかりやすい。特にF2のような深部の断層は非常にわかりやすくなっている。F1とF3は共役断層。模式図は本文の第12図に示される。